

2024 年度 大学院 法学研究科 博士前期課程 入学試験

(一般入学選考 2 月)

1 時限目 A 専門科目

政治学 試験問題

受験番号	氏名

政治学 試験問題

以下の①～⑤の概念は、いずれもその内容をめぐって様々な学説が展開してきたものである。

①～⑤のうちからどれか2つを選び、選択した概念についての諸説（できれば誰の学説かも示すこと）の内容と、それらの概念についての議論の展開を論述しなさい。

①権力 ②政党システム ③政治体制としての民主主義 ④ポピュリズム ⑤市民社会

解 答 例

近畿大学大学院法学研究科 (博士前期) 課程

2024年度入試 (2) 月期 <2023年度実施>

(一 般) 入学選考

(A 専門科目)

科目名 (政 治 学)

以下の①～⑤の概念は、いずれもその内容をめぐって様々な学説が展開してきたものである。①～⑤のうちからどれか2つを選び、選択した概念についての諸説（できれば誰の学説かも示すこと）の内容と、それらの概念についての議論の展開を論述しなさい。

①権力 ②政党システム ③政治体制としての民主主義 ④ポピュリズム ⑤市民社会

①権力についての様々な定義、最も有名なものはウェーバーとダールによるものと思われるが、それらを中心に他の学説（非決定権力、三次元的権力、規律型権力など）についても自由に論述すればよい。

②デュヴェルジェやサルトリーによる政党システムの分類をふまえた論述になっていることが評価のポイントとなる。それ以外の学説について論述している場合にも評価するが、デュヴェルジェの分類について言及することが最低限必要である。

③政治体制と限定しているので、民主主義についての政治思想ではなく現代政治学の範囲で回答することが期待される。ダールやレイプハルトの所論を解答することを期待しているが、それ以外の論者について述べた場合でも内容に応じて評価する。

④ミュデによるポピュリズムの定義を解答中で示すことが望ましいが、それ以外にも様々なポピュリズム論はあるので、言及されている学説に応じて評価する。また、時事的な解答内容でも誤答とはしない。

⑤市民社会についての学説は、ヘーゲルやマルクス、トクヴィルから現代の市民社会論まで多様である。そのうちのいずれかの学説を論述すれば評価する。

出題項目が多いため上記の文中で言及されている論者の学説の内容について詳細に書くことはできないが、それぞれ概説書等を参照すれば内容は知ることができる。

出 題 意 図

近畿大学大学院法学研究科（博士前期）課程

2024年度入試（2）月期 <2023年度実施>

（一般）入学選考

（A専門科目）

科目名（政治学）

大学院で政治学を研究することは単に事実を記述することや自分の思想信条を主張することではなく、これまでの研究の展開をふまえて行われる必要がある。このため出題は、大学院で研究を行うにあたって、政治学について何らかの形で基礎的な知識を持っているかどうかを確認する意図に基づいている。出題した5つの用語・概念はだいたい入門的な科目で学習するもの（本学部においては政治学原論）を想定している。5問中2問選択としたのは、授業・教科書によって扱う内容が少しずつ異なっていることや、志願者の関心の多様さに配慮したものである。基礎的な知識を問う問題で難易度は低く設定したつもりである。

いずれの問題も政治学の学説についての知識を問う問題なので、学説について知る内容を論述することが求められる。学説について自分なりの検討を行うことは評価の対象とするが、学説をふまえずに自分の思想や主張だけを展開することは評価の対象ではない。